

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の基本理念を基本として、馴染みのある、また、自分の家として過ごせるよう、個々の職員は取り組んでいる。	○	定期的に理念を確認する機会を設けておらず、その都度、職員に対して馴染みのある生活に向けた話し合いは行っている。今後は、定期的に見直し、また、確認できる場を設けて、日々理念に向けた取り組みが確実に進めるようにしたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当初に職員間で研修を行い、理念や日々の取り組みについて話し合っている。	○	個々の職員とともに、利用者の馴染みの生活に向けて取り組んでいるが、理念を実践していくことについては、やはり、業務や利用者の対応に追われがちになってしまい、確実な理念の実現に向けた実践は不十分である。そこで、定期的に理念の取り組みについて話し合いの場を設け、確実に実践できるようにしていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、入居時にパンフレットを活用して説明したり、運営推進会議の中でも、よりあいの理念について説明し、理解を得られるようにしている。	○	定期的に浸透するように働きかけは行っておらず、今後も、地域との交流の際や、運営推進会議の際などに、よりあいの理念が浸透できるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時には、近隣の方に挨拶をしたり、畑仕事について近所の方に教わるなどして、近隣の方が畑で収穫した野菜を持って来て下さったりする。また、よりあいで作った餅や野菜を持って行くなど、近所の方との交流については、できるようになってきている。	○	現在のところ、近所の方との交流は、ある程度かかわりを持ってきたが、高篠地区での近隣の方との交流は不十分である。まだ、よりあいについて知らない近隣の方もおられるので、自治会の時によりあいの説明をしたり、積極的に地域の中に出て行けるような活動を行っていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民生委員の方に説明会を行ったり、地域の方との交流もある程度行えるようになってきている。しかし、小さい地域のみのかかりであり、よりあい運営推進会議でも委員の方とも相談しているが、もっと地域の活動に参加できるようにしていきたい。	○	近所の方との付き合いは、畑の野菜を持って行ったり、持って来て下さったりの関係はできているが、高篠地区全体を考えると、まだまだ行えていない部分も多くある。今後も、運営推進会議などで、委員の方とも相談しながら実践できるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今までに、事業所の力を活かした地域貢献は行えていないが、運営推進会議の場で、地域に貢献したいことを確認しあったり、民生委員の方にも、何かあれば、よりあいの力を活かせるよう関わっていききたいことを話し合っている。	○	まだ、具体的にどのように貢献していくかまでは話し合えていない。今後も、民生委員の方と話し合ったり、社協の職員、運営推進会議などで、どのように取り組んでいくかなど、話し合い実現に向けて取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者が担当する項目以外は、全職員に自己評価をしてもらった。また、全員で評価した自己評価を持ち寄って、今のよりあいの課題や良い面など確認している。	○	今回の外部評価で、気づいていない課題が、多々あると思われるので、今回の外部評価を基に、さらなる地域に根ざした、馴染みのある「よりあい」に向けて取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員の方によりあいの現状を写真などを使って分かりやすく説明している。また、畑については、委員の方が土を探してくれたり、畑の植え付けの教をいただくなど、運営推進会議で出た課題について、その都度委員の方と話をしながら、実践に向けて取り組んでいる。		今後も定期的に2か月に1回、運営推進会議を開催し、客観的な立場での意見をいただきながら、サービス向上に向けて取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、町の職員の方に必ず出席していただいております。市町村からの助言などもいただいております。また、よりあいで困ったことなどは、その都度、町の担当の方に連絡を取り、お話をうかがうようにしている。毎月、町の方に、よりあいの入退居情報も渡しており、その時に、何かあれば相談するようにもしている。	○	今後も、市町村との関係を密にしていけるよう、情報提供を行っていききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入所前ではあるが、実際に成年後見制度を活用されている方や、成年後見制度について質問のあった家族もおられ、その都度説明している。	○	具体的に説明できるパンフレットは設置できておらず、必要があればインターネットを使って、ご家族に説明しているのが現状である。今後は、全ての方に制度について知っていただくためにも、周知方法や資料の提示について検討していききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員で身体拘束を行わないことが基本として取り組んでいる。	○	町の担当の方とも相談したことがあるが、虐待のラインをどこまでにするかが悩むところである。職員が少ないために、外に出て行こうとする方を引きとめてしまうのも虐待になるのかなど、今後も、しっかりと町の担当者や、ご家族とも相談しながら解決していききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、「よりあいの利用のしおり」で、簡単に説明を行っている。また、実際の契約時には、契約書や重要事項説明書で説明し、納得を得た上で手続きを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見については、その都度お話を伺い、可能な限り対応して行くようにしている。また、外出の希望なども、実際に行事やお芝居に行くなど、実現に向けて取り組んでいる。	○	日々の生活の中での不満については、その都度対応できるようにしている。利用者間同士の不満については、やはり、認知度によって差もあるため、対応が困難な不満もあり、今後も、どのように対応すべきか検討して行く必要がある。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族様へ状態報告と写真を1枚添えて暮らしぶりを報告している。また、金銭に関しては、ご家族様への毎月の状態報告の資料を送付する際は、現金出納簿も一緒につけて、ご家族様の確認印をもらうようにしている。家族会については、半年に1回のペースでの開催を計画しており、昨年12月に第1回目として実施している。		今後も継続して、電話連絡や、面会時の状態報告など、定期的に状態報告をしていくようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを玄関前に設置したり、よりあい運営推進会議にも、家族会で選出していただいたご家族も同席していただいております。意見をうかがうようにしている。また、毎月送付している状態報告にも、よりあいに対するアンケートをつけて送付しており、意見を回収できるようにしている。	○	アンケートについては、全利用者のご家族から返信していただけていない。また、そのアンケートについても、「満足」という意見が多く、今後は、できるだけ、「どこに不満や要望があるのか」を聞き出せるように、引き続きアンケートや、家族会、運営推進会議の場で説明していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、職員の意見を取り入れ、対応できる項目や、検討すべき課題を話し合っている。しかし、何か会を持っての話し合いは、なかなか行えておらず、業務の中で気づいたことや課題を管理者に相談し、その都度、できることはすぐに行えるようにしている。	○	現場の中では、その都度管理者と職員は話し合いを行っているが、まだ十分とは言えず、今後は定期的に職員との話し合いの場を持つ会を開催し、意見や提案を反映できるようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事によっては、勤務職員を多くしたり、急な休みにも対応できるように、各職員が常に意識して勤務している。また、勤務変更が突発的にあった場合でも、各職員は柔軟に対応してくれている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現時点では、職員の異動もなく、各利用者と職員の関係も馴染みの関係となっている。		法人自体が様々な事業を行っており、人事異動も今後考えられるが、できるだけダメージを防げるよう、引き継ぎや新しい職員の紹介、また、この利用者の状態把握や、よりあいの勤務マニュアルを活用して、ダメージを防ぐ対応をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートで、各職員の到達すべき課題を明確にして取り組めるようにしている。事業所内での研修については、まだ十分に行えていないが、現場レベルで主任を中心にしてOJTで取り組んでいる。また、法人全体での研修会もあり、そこに参加して自己研鑽できる体制もある。	○	事業所としての研修は、まだ十分に行えていないのが現状であり、今後は、定期的に事業所内での研修が行えるように取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ、開設して9か月という事もあり、他の事業所へ向けての働きかけが行える状態までには至っていない。	○	グループホーム開設前には、他のグループホームへ見学に行くなど、サービスの質向上に向けた取り組みは行っていたが、現在はそのような取り組みは行えていないため、今後の課題として取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスがたまらないように、管理者として、日々の業務の中で、意見を聞けるようにしている。	○	管理者として、他の業務を行っていることもあり、常に声が聞けているかと言えばそうではないので、今後も、できるだけ個々の職員の意見や悩みを聞けるように、場を提供していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	具体的には、各自の向上心を持って働ける取り組みは行えていないのが現状である。しかし、個々の職員は意識して取り組んでくれており、利用者の対応方法や提案をしてくれている。	○	今後は、できるだけ個々の職員の向上心につなげられるよう、研修への参加や、話し合いの場を設けていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず事前調査にうかがい、入所してからの生活については、利用者やご家族にうかがうようにしている。また、利用者の方が困っているようであれば、個別にお話をうかがうようにしている。	○	入所前に意見をうかがうようにしているが、全てのご家族から意見を聞き出せているかといえばそうではないので、日々の生活の中で、利用者の意見や、ご家族の意見を聞き出せるように取り組んでいきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず事前調査にうかがい、入所してからの生活について、利用者やご家族にうかがうようにしている。また、利用者の方が困っているようであれば、個別にお話をうかがうようにしている。	○	入所前に意見をうかがうようにしているが、全てのご家族から意見を聞き出せているかといえばそうではないので、日々の生活の中で、利用者の意見や、ご家族の意見を聞き出せるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には必ず事前調査にうかがっており、その時には、グループホームについても説明している。また、入所の決定については、事業所内でも入所判定における話し合いを行い、各職員にも把握できるようにしている。	○	入所前の事前調査でうかがうようにしているが、入所してからは、意向をうかがう場面を具体的に設けてはいないので、引き続き入所しても、お話をうかがえるように取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、事前調査で、ご家族や本人へ説明するだけでなく、事前によりあいに来てその場の雰囲気を感じてもらえるようにしている。また、実際に入居前に見学に来たりもしている。馴染めない方もおられ、定期的に外泊をしてもらっているご家族もいる。	○	利用者の認知度にもよるが、やはり、理解困難で納得して入居されていない方もおられるので、この点については、その都度、ご家族と相談しながら実施していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけ寄り添うことを中心に考え、料理の場面であったり、畑であったりと、利用者が中心となって輝ける場面づくりに取り組んでいる。調理や畑仕事では、作り方や植え方などを、利用者の方に教わりながら行っている。また、畑で収穫した野菜については、利用者の方にどのようにして食べるのかなど、聞きながら提供するようにもしている。		今後も引き続き、利用者と共に学んだり、支えあう関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から相談があれば、その都度うかがうようにしている。また、毎月の状態報告だけでなく、何か変化があれば、その都度ご家族に連絡して、どのように対応していくか話し合いを行っている。また、ご自宅へ行っての相談が必要な場合でも、可能な限り、ご家族の都合のいい時間を見て、訪問して話し合いも行っている。面会の際にも、近況報告を行うようにしている。		今後も引き続き、利用者の方と支え、支えられる関係を大切に組み組んで行く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事の際には、ご家族に連絡して、できるだけ利用者の方と一緒に過ごせる時間づくりを行っている。また、面会時なども話しやすいように、自室やロビーへ案内するようにしている。		今後も、よりご家族と利用者の方の関係を深めていけるように、家族会についても、一緒に食事ができる場面を設けるなど、さらなるご家族との関係形成を行っていききたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会では、ゆっくり話ができるように場を設けたり、職員が間に入り、言葉の橋渡しを行っている。また、面会時には、ゆっくり過ごしていただけるようコーヒーやお茶等のおもてなしをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で関係形成できるよう、職員が間に入って話をしたりしている。好みも利用者それぞれであるため、無理に「全ての人が」ではなく、仲の良い関係を大切にしている。現在では、利用者同士でお互いを気遣ってくれる場面も多くなっている。	○	少人数だからこそ生じるトラブルもあり、そのような時には中立の立場で、お互いの話をうかがうようにしている。やはり、利用者どうしのトラブルはあり、できるだけ個々の利用者の方が孤立しないように、注意していかねばならないことが課題となっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	実際に退所されてからも、ご家族から相談があったり、こちらから電話連絡して状態確認をしている。また、必要に応じて地域包括支援センターとも連携して、退所後の生活に支障がないように取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前には、個人のアセスメントや、センター方式を活用して、個々の利用者の思いを把握できるようにしている。また、日々の暮らしの中でも、利用者が過ごしたい生活についてうかがいながら、近隣のお店に買い物と一緒にいたり、本人本位に生活できるよう検討している。	○	全ての人の思いを実現できているかといえば、まだ、十分ではないので、今後も、アセスメントや本人の意向などを伺いながら、本人本位に過ごしていただけるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前には事前調査を行い、実際に入所する時には、センター方式を活用して、その方のこれまでの暮らしを把握するようにしている。	○	センター方式を活用できているかと言えば、全利用者に向けては行っていない部分もある。今後も、できるだけセンター方式の習得と、実践に向けて研修していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、引き継ぎや、日誌類、申し送りノートで確認し、その方の生活状況が確認できるようにしている。また、必要に応じて、その都度、職員で話し合っ対応するようにしている。	○	日々の生活の中で気づいたことは、その都度話し合い、申し送りノートなどに記入して、対応するようにしているが、定期的に職員が集まっての検討は行っていないのが現状である。今後は、その都度行うことを、大切にしなが、定期的に職員で集まって話し合いの場を設けるようにしていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は、事前調査での資料や、センター方式、また、日々の生活を交えながら作成するようにしている。	○	センター方式でケアプランを作成していますが、十分に活用できていないのが現状で、引き続き個別の馴染みのある自分らしい生活に向けたアセスメントを実践していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランについては、状態変化があれば、その都度見直しを行うようにしているが、確実に状態変化があった場合などの見直しなどは十分にできていない。ケアプランについては、必ずご家族に出席していただき、同意のうえで実施させていただいている。	○	緊急時などには、個別に今後の対応について話し合いを行い、見直しして実践していますが、センター方式を活用しての見直しは十分でなく、今後も、今の現状だけを見るのではなく、過去の生活や馴染みの生活を取り入れた見直しを実践していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録として、ケアプランチェックノートを活用して、日々のケアプランの実施状況を確認したり、ケース記録に日々の生活の様子を記入したり、個別の排泄・睡眠・水分摂取などのチェック表から、介護計画を作成するようにしている。	○	個別の記録は行えているが、それを確実にケアプランに反映できているかといえば、そうではない部分もある。確かに優先順位によって、可能、不可能はあるが、できるだけ個別の記録から、現状を確認して作成するようにしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議や、民生委員の集まりなどに、事業所の多機能性を説明はしているが、実際には、そのような取り組みは行えていない。	○	もっと地域の方に、よりあいを知っていただけるように、情報公開や、地域に出での活動を行っていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などには、地域のボランティアの方に参加していただいたり、防災訓練などには、消防署職員立ち会いの基で実施している。	○	よりあいとしても、できるだけ地域に出での生活を目指しているので、今後も、今まで以上に地域資源を活用できるように取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所される場合には、家族や必要に応じて地域包括支援センターとも話し合いを行っている。		今後も、引き続き、退所などの際には、ご家族だけでなく、他の事業所とも相談しながら実施していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	退所される方がおられ、その時には、地域包括支援センターとも話し合いをもち、円滑な退所に向けた取り組みも行っている。	○	今後も、引き続き、退所などの際には、ご家族だけでなく、他の事業所とも相談しながら実施していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前には、馴染んだ病院の確認を行い、できるだけ馴染みの医療機関で受けられるように取り組んでいる。しかし、今のところは、よりあいの協力医療機関での受診をお願いされており、2週間に1度は受診したり、体調に変化があった場合は、その都度受診し状態報告するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今のところは、認知症の専門医との関係は行えていない。	○	法人で、他の事業所では専門医による往診も行われていることもあり、法人内で話し合いや、そのご家族とも協議しながら、専門医による医療が受けられるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤では看護職は配置されていませんが、嘱託で勤務してる看護師に確認したり、隣のデイサービスの看護職に連絡して、迅速な対応が行えるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、定期的に面会にうかがい、病院の看護師と相談したり、医師と早期退院に向けた話し合いを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに、重度化して入院のため退所された方がおられるが、週に1回のペースでうかがうようにしている。ご家族から状態報告を受けたり、医師からの説明を受けるなどして、今後の対応についてできるだけご家族の要望に合う対応をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	確実な重度化や終末期に向けたマニュアルは作成できていないが、グループホームで行える医療行為として、医療マニュアルは作成しており、入所時にはご家族へ説明している。また、何かあれば、協力医療機関の医師に相談するようにしている。	○	医療マニュアルを作成しているが、ニーズに合わせて、できるだけご家族や本人の要望に応えられるように、取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所による家族との関わりについては、入所間近は、定期的にご家族に面会に来ていただいたり、その都度電話連絡して、状況説明するようにしている。慣れない方については、デイサービスのように送り迎えをしたり、外泊についても話し合って行うように取り組んでいる。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいや対応については、職員一人ひとりが意識し配慮している。また、排泄などについては、毎日のトイレの状態を確認できるようにして、なるべく羞恥心に関する言葉を使わないようにしている。	○ 全てにおいて配慮できているかといえば、できていない場面もあり、「トイレは」などと、プライバシーを損ねる声かけをしたりする時もあり、各職員で注意しかかわらなければならない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のしたいことや、希望などはその都度うかがうようにしており、買い物の希望や、受診の希望があれば、その都度行けるように対応している。	○ 職員数にも限りがあり、できること、できないことも現実にはあり、できるだけその方のニーズに沿った対応やかかわりが、行えるよう支援していかなければならない。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や、睡眠時間、また、その方が行いたいことなどは、その方に応じた過ごし方をしてもらっている。なかには、一人で散歩に行かれたり、水やりを行ってくれる方もおり、できるだけ希望に沿えるように対応している。	今後引き続き、一人ひとりのペースに合った日々を過ごしていただけるよう取り組んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類や化粧品など、本人様が欲しい物は、一緒に買い物に行って購入するようにしている。散髪については、馴染みの理髪店にご家族が連れて行って下さったり、そうでない方は、近所の理髪店に送迎して出かけるなど、できるだけ地域での関係を大切にした理美容が行えるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや、買い物などは、できるだけ利用者の方と行うようにしている。また、職員が季節に応じた食材を持ってきて、一緒に皮をむいたり、後片付けなども、分担して協力して行っている。また、買い物にも2日に1回は行っており、お店の食材を見て、今の季節の野菜や果物などを話したりもしている。	○ メニューについては、季節に応じて、利用者の食べたい物をうかがい、できるだけニーズに沿った食事を提供している。しかし、主に職員が考えており、今後はできるだけ利用者のニーズに応じた食事を、提供できるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつについては、利用者のその日の好みに合わせて、手作りおやつなども作っている。また、自分で欲しい物があれば、近所のお店に出かけて、欲しい物を購入できるようにもしている。	ホームでの食べ物以外にも、面会の時に、ご家族や知人の方が「みなさんどうぞ」と持って来て下さっており、利用者の方もさまざまな地域のお菓子などを食べておられる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや、個別の排泄案内が行えるように、個別の排泄記録をつけており、個々に応じたトイレ案内を行っている。また、入所当初は案内しないとトイレに行っていない方が、自分でトイレに行っている場面も見られている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、できるだけ夕方から夜間に入れるよう、当たり前の入浴が行えるよう、夕食前と夕食後に落ち着いてから入浴できるように、一日を2回に分けて入浴できるようにしている。また、最低週3回は入浴していただけるようにしているが、個々によっては、入浴日以外でも希望があれば入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れた時などは、昼の間で横になってもらい、また、不安感の強い方に対しては、一緒に職員も横になって過ごしている時もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた外出行事を行っている。また、行事としてではなく、当たり前のように生活しているように、天気が良ければドライブに行きお花を見たりしている。日々の生活の中では、その方が得意とする縫物であったり、掃除や畑仕事であったりと、できるだけ個々の役割のある生活が行えるようにしている。		今後も、個々の利用者の方が役割のある生活が行えるように取り組んでいく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したい方については、入所時にご家族とも話し合い、自己管理されている方もおり、買い物に出かけた時には、自分の嗜好品を自分で買っている方もいる。また、お金を自己管理されている方は、近所のお店と一緒に欲しい物を買って出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に行きたい希望があれば、できるだけ散歩に出かけたり、2日に1回は買い物に行っている事もあり、買い物外出にも一緒に行ってもらっている。また、その時期のお花を見るなど、その時にドライブなどをして、できるだけ出かけられるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事では、近隣にでかけるだけでなく、昔行っていたであろう、箸蔵寺、飲食店、お芝居などの外出など普段生活しているような生活が行えるように取り組んでいる。また、その都度ご家族にも連絡して、一緒に行ける体制も検討して行っている。		今後も、行事としてではなく普通に、家で天気の良い日に外出するように、日々の生活の中で当たり前の外出が行えるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方より希望があれば、ホームの電話を利用してかけている。また、手紙のやり取りを行う利用者の方はおられません、希望があれば行える体制は整えている。		利用者の中には、文字がかける方もおいでるので、毎月送付している家族宛の報告書の中に、本人様を書いた近況報告を送る事も取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶を出したり、ゆっくりお話ができるように場所を提供している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、禁止事項の確認を行い身体拘束をしていない。また、身体拘束が必要な場面が生じた場合には、身体拘束廃止に向けた書式も作成している。	○	定期的な身体拘束に関する委員会が行えておらず、現状としても身体拘束はしていないが、もう一度、何が身体拘束となるのか、全職員で話し合いを行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に玄関の鍵はかけていない。また、利用者の方も、一人で散歩に出かけている方もおられ、自由に外に出られるようにはしている。	○	玄関の鍵はしていないが、裏口に関しては、どうしても職員の間がいき届かないため、裏口の施錠についてはしている。また、玄関の鍵はしていないが、業務や職員数によって、出ようとしている方を引き止める事があり、ハード面よりもソフト面での対応に心がけていかなければならない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士で、注意が必要な方の確認を行い、一人の職員がフロアに残る場合は、もう一人の職員に声をかけるようにしている。また、常に注意が必要な利用者の方については、30分ごとに各職員がチェックして、安全確認が行えるようにしている。その他にも、申し送りノートや日誌などを確認して安全に注意している。		個々の職員は常に注意して見守りを行っているが、ふとした瞬間に歩行困難な方が立ったり、不安感が強い方にかかわっている時に、突発的に外に出ようとしている方もおられ、十分な確認は行えていませんが、今後も、職員同士が声をかけあい、安全に注意して行く。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや包丁などは、所定の場所に保管している。また、必要に応じ、調理の際などには、利用者の方に持ってもらい調理の手伝いをしてもらっている。		利用者の方については、包丁やハサミなど、昔から使っている物なので、逆に職員が思っている以上に安全に使用してもらっており、今までの危険な物として管理するのではなく、できるだけ利用者の方が使えるような場面をもっとつくってきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故などがあれば、事故・ヒヤリハット報告書を作成し、その都度、勤務している時間に話し合いを行い、カンファレンスを行っている。また、特に注意が必要な事柄については、申し送りノートにも記入して、各職員が把握し実践できるようにしている。	○	事故報告書については、その都度記入して、その都度カンファレンスをしている。全職員が確認しやすいように所定の場所に保管し、各職員が確認しているが、サインが抜けている部分も多く、今後は、確認とサインを徹底していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成しており、その都度、急変に合わせて対応している。また、急変や状態が変化した場合は、協力医療機関の医師に指示を受け、指示に従って対応している。	○	開設当初の昨年8月には研修を行いました。それ以来、十分な研修が行えていないので、定期的に急変時の対応が行えるよう、協力医療機関の医師とも相談しながら、急変時の対応が即座に行えるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に(年2回)、消防署職員立ち会いのもと、防災訓練を行っている。しかし、地震災害に対する訓練は行えていない。	○	定期的に年2回は実施していますが、やはり、何時どんなことが起こるか分からないので、定期的に防災訓練を行えるようにしたい。また、火災訓練だけでなく、地震や災害に関する訓練も行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故報告書で、その都度、ご家族には状態報告を行い、どのような対応を行ったか説明している。また、利用者の状況によっては、リスクを伴うこともご家族に説明するようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、日誌や申し送りノートを確認し、日々の状態観察を行っている。、少しでも体調に変化があれば、医師に指示を受けたり、受診するようにしており、その都度ご家族にも状況説明するようにしている。また、必要に応じて、毎日の点滴受診の付き添いや、ご家族によっては、点滴受診に付き添っていただけるご家族もあり、協力して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認ノートで、個々の服薬状況を確認できるようにしている。また、飲み間違いのないように、薬については事務所で「朝・昼・夕」と小分けさせていただき、飲み間違いのない服薬支援をしている。医療関連に関する事柄については、医務申し送りノートを作成しており、そこで職員が確認できるようにもしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多めにとってもらえるように、おやつの時や食事での水分など、一日どの程度水分が摂取できているか、水分ノートで確認している。また、定期的にミックスジュースなど便通に良い物を提供するようにしている。	○	的確な便通対策を取っているかといえば、十分には行えていないので、今後も、便秘に対する対策を検討していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝や夕などは行えているが、中には拒否される方や、十分に行えていない方もおられる。必要な方については、訪問歯科診療にて処置していただいている。	○	今後も、口腔清潔保持に向け、個々の状態にあった口腔ケアを検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給量を毎回チェックしており、どれだけ摂取しているのか確認し、受診の際や、ご家族に説明する際などにも活用している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、うがい、手洗いを徹底している。また、台所に関するチェック表や食品に関するマニュアルも作成し感染予防を行っている。		利用者の中には、床をはって掃除してくれている方もおいでるので、引き続き掃除の後の手洗いや消毒を徹底していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理チェック表を用いて、衛生管理を行っている。また、食材については、2日に1回買い物に出かけており、消費期限内に調理するようにしている。調理で使用している包丁やまな板なども、一日一回は消毒するなど安全管理を行っている。		賞味期限の確認の徹底をしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周囲には、植栽やお花を植えており、親しみやすい環境に配慮している。また、できるだけ施設ではなく、家として玄関から入っていただけるように、玄関も普通の家の玄関にしている。		利用者の中に、花と草の区別が困難な方がおられ、花を飾ってもすぐに抜かれてしまい、飾る時には、何かしらの注意が必要となっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わざと家庭的に環境整備するのではなく、建物を建てる時から、建築士と相談して、日本家屋風に建築してもらい、違和感のある物を置かないように工夫している。しかし、季節のお花などは、その都度職員が持ってきたり、近隣の方が持ってきて下さり、皆さんでお花を見て楽しまれている。	○	ハード面については、今後も、利用者の要望や季節に応じた居心地の良い共用空間づくりを行っていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内だけでなく、廊下に椅子を置いたり、利用者によっては、居室に訪問して話をするなどしている。また、フロア内もソファのスペースも設置し、気の合った方が過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所説明の際には、「よりあい利用のしおり」で、馴染みの物を置く大切さを説明し、中には、昔の写真や家族の写真を飾られていたり、小さい小物入れや、椅子を持ってきている方もおられる。	○	すべての利用者の方が馴染みのある物があるわけではないので、今後も、必要に応じて、ご家族とも相談しながら、利用者の方が馴染んだ生活を、過ごせるように取り組んでいく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアや居室には、湿温度計を設置して対応している。また、居室の窓については、夜勤者が空気の入替えをしている。また、日中でも、その時に応じ空気の入替えを行っており、換気、空調については配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設前より、設計の段階で、不必要な手すりの設置について検討し、手すりよりも壁を伝って歩行される方も多くおられるので、不必要な手すりは設置していない。また、フロアの椅子も、ひじ付きとひじ無しを用意している。	○	手すりについては、開設前に必要な個所と不必要な個所を選定して設置しているが、今後、必要に応じて、手すりを設置できるようにしていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの扉は、昔の「かわや」風に、昔の物を特注で作ってもらい、間違えないように設置している。また、居室については、名札などをつけるのではなく、必要に応じて、自分の好きな物が付けられるように、フックをつけている。	○	ある程度、トイレについては理解され、自室も覚えておられるが、新しく入所した方は、やはり、慣れるまで時間がかかる。表示するだけでなく、自分の家として使用していただけるよう、人と人とのかかわりを大切にし、場所間違いのない工夫をしていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスには、プランターを設置したり、外周には畑をつくって、季節の花や野菜を作っている。また、畑の土については、近隣の方が持ってきてくれるなど、地域の方もかかわってもらっている。		利用者によっては、プランターに花が咲くと、それを草と誤って、全て抜いてしまう方がおられる。また、それを他の利用者が見て、トラブルになることもあり、対応に注意していかなければならない。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できるだけ当たり前の生活が行えるよう、その日の職員数にもよるが、ドライブや外出に行けるようにしている。また、お芝居なども、利用者同士の何気ない会話の中からつかみお芝居にもでかけている。医療面についても、協力医療機関の医師がよくしてくれており、土・日曜日であっても必要があれば点滴を行ってくれており、今までに大きな病気によって、体調を崩された方もいない。